

引きこもりや発達障がいなど「働きづらさを抱えた方」に農業体験や研修を通じて就農へ導き、就農できるサポート体制や地域のネットワークを作る

事業実施主体構成員

公益財団法人 喝破道場

実績値（目標値）

①労働力受入担い手農家数：5 (5)

令和4年度取組み内容

| 今年度の取組み内容 | 課題 |
|---|--|
| ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等） <ul style="list-style-type: none">・JA香川県アグリワークでは、求職者本人が登録し、担当者との面談を完了しなければ求人情報を公開してもらえないシステム。働きづらさを抱えた方に現在具体的にどういった農業の仕事があるかの情報提供ができなかった。・香川県発達障害者支援センター「アルプスかがわ」新井センター長から利用者様の意向をヒアリング。利用者の方は、通常の雇用契約での就職を希望する方ばかりで、農家さんは福利厚生など雇用条件が整っていないところが多いのではとのご指摘があった。 | JA香川県では、農福連携の取組はこれからで、アグリワークでは農家さんは即戦力になる人を募集しているので働きづらさを抱えた方の紹介は難しいとの結果だった。 フルタイムでの求人募集をしている農家さんは、ハローワークなどで見る限り人口比率から考えて多くない。農業における労働力不足は課題だが、高松市においては雇用したい農家さんが少ない。 |
| イ 労働力の確保・育成（情報発信等） <ul style="list-style-type: none">・農業体験会のご案内など「香川若者サポートステーション、オンライン授業（R4年6月1日）」を開催し、農作業内容の紹介や就農の魅力について説明。（R4年6月15日農業体験会の実施利用者6名とサポステスタッフ5名の参加）・インスタグラムによる開花塾プロジェクトの進行状況や農業体験の案内などを発信。・喝破道場の機関紙「四恩の里だより」に毎月開花塾プロジェクト通信を折込み約450件に配布した。・高松市市民活動センター「ふらっと高松」HPにて協力農家さんの募集を行った。・ケーブルメディア四国、NHK高松放送局の地域のニュースで取り組みを紹介していただいた。・三つ折りリーフレット4000枚作成、行政関係、JA香川県を中心に配布。 | HPからの農業体験申込みフォームなどを作成し、人と対話せずに気軽に申し込めるよう試みたがほぼ申込者はいなかった。 昨年、HPの制作にあたった方がペライチの無料体験版を使用していたため今年応用できることが限られてしまった。 |

| 今年度の取組み内容 | |
|--|--|
| ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ハローワーク高松 専門援助部門で現状調査を行う。 【R4年4月15日時点実績：農業求人数136件、障がい者受入れ0件】 【R5年1月23日時点実績：農業求人数156件、障がい者受入れ丸亀市1人、高松市0件】 | 働きづらさを抱えた方は障がい者ではないので、一般求人となる。障がい者で農業を選択した実績はないとの事。 |
| エ 農業の「働き方改革」への取組み（課題調査及びセミナー開催等） | |
| <ul style="list-style-type: none">・多忙な農家さんが集まれる体制が作れなかったためSNSを利用して農家さんに「働きづらさを抱えた方や、働きやすい職場環境作りについて」を発信することでセミナーを開催の代わりとした。（R4年全16回）各回の再生回数は、400回前後と少ないが、前回を通して視聴することができるプレイリストを作成し、働きづらさを抱えた方との接し方が不安な農家さんが繰り返し視聴できるようにした。・働きづらさを抱えた方と農家さんの相互理解を深め、共に働ける労働環境を整えるポイントなどを小冊子にしてJA香川県や行政機関を通じて1500部配布。・働きづらさを抱えた方が安心して農業へ一歩踏み出せるように臨床心理士・公認心理師によるカウンセリングなどを実施した。体験者からは、気持ちが楽になり就職へ前向きになれたと好評だった。 | 実施主体を取り巻く環境では、セミナーの開催が難しい。いつでも都合の良い時間に情報を共有できるようにSNS（YouTube ショート、Instagram）や小冊子で代用。 |
| オ 他産地・他産業との連携による労働力確保 | |
| <ul style="list-style-type: none">・長年、障がい者歯科保健支援事業を実施してきた香川県歯科衛生士会、障がい者歯科診療を行っている高松市歯科医師会に開花塾プロジェクトの取組を説明し、障がい者やそのご家族にリーフレットの配布を協力していただいた。また、専門家の意見として徳島大学 原田先生のご意見もいただいた。 | 働きづらさを抱えた方には重労働である農業はハードルが高い。就労継続支援B型作業所の利用者さんに農業をお勧めする場合10：00～16：00位の時間内で作業時間を長く確保するには、移動時間の短い協力農家さんを見つける必要がある。 |

| 今年度の取組み内容 | |
|--|---|
| カ 受入段階の計画（中核人材の確保・関係者の理解促進の取組み） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ KHJ香川県オリーブの会の引きこもり経験者などを農業で活躍させるなどの実績を持つ香川県社会就労センター協議会のコーディネーター阿部様に協力依頼。喝破道場で実施が困難なことを香川県で既にシステムを整えて活動している団体と協力体制を深める。 ・ KHJ全国ひきこもり家族会、KHJジャーナル「たびだち」に広告掲載。働きづらさを抱えた方が農業を体験して働く喜びを味わってもらいたいとの思いでプロジェクトの取組を案内。 ・ JA香川県 農福窓口となっていたいただいている担当者との交流により、取組みについてJA香川県の機関紙「きらり」11月号に取り上げていただいた。 | <p>香川県社会就労センター協議会での取り組みは、香川県内の就労支援施設40軒あまりと100軒ほどの協力農家さんとの良好な関係を持続している。</p> <p>農林水産省や香川県農政水産部農業経営課などとのネットワーク構築が密にできている。</p> |
| キ 就農支援の計画（農業体験、研修、受入農業者に対する研修の実施） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 【イチゴ農家さんで農業研修】（R4年9月6日、4名参加） ・ 【サツマイモ農家さんで農業研修】（R4年9月6日、2名参加）知的障害、発達障害の方を農業体験に参加していただき問題なく作業ができたが、同じ農家さんから触法者の方の場合は事前にどんな方か会ってから受け入れできるかできないかを決めると言われた。 ・ 【バジルの収穫とジェノベーゼソース作り】（R4年9月8日、2名参加） ・ 【ブロッコリー農家さんと一緒に冬野菜を作ろう】（R4年9月21日4名参加） ・ 【ホーリーバジルの収穫と選別】（R4年10月19日、1名参加） ・ 【青ねぎの出荷調整】（R4年11月16日、1名参加）（R4年12月7日、1名参加）（R5年1月18日、1名参加） ・ 【みかんの収穫体験】（R5年1月11日、2名参加） ・ 【香川本鷹の収穫】（R4年12月21日、1名参加） ・ 【農業体験参加者を対象にアンケート調査の実施】働きづらさを抱えた方が農業で働く事に対してどのように感じたかなどを集計しまとめた。 | <p>家族経営の農家さんが多く、雇用の余裕がないケースが多い。</p> <p>触法者に対する理解には、時間がかかることと就労支援施設の利用者さんと異なり喝破道場と関わる期間が短く就農のチャンスには至らない場合が多い。</p> |
| ク 定着支援の計画（中間就労の仕組み作り・就農、定着支援に向けたサポート） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 香川県社会就労センター協議会の組合員となり、香川県で既に稼働している共同受注システムを活用し農業研修を行った。 ・ 高松市健康づくり推進課 精神保健係の保健師、精神保健福祉士の方がR4年6月に見学訪問し、今後「当事者のための生活スキルアップセミナー」などに農業体験を取り入れたいとの話が上がった。 | |